

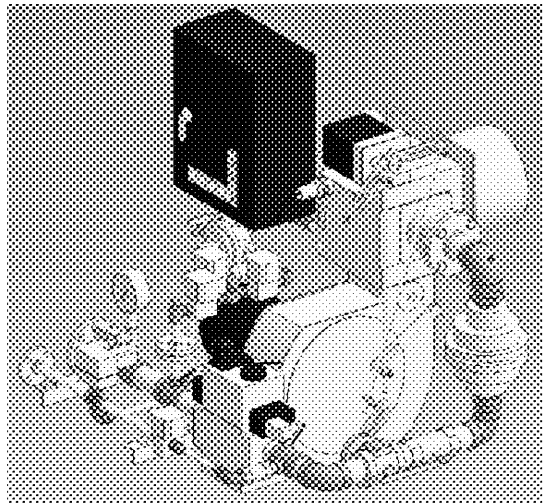
ガンタイプ水素バーナー開発

中外炉、燃焼装置を一体化

中外炉工業は送風機やノズルユニットなどの燃焼装置が一体となったガンタイプの水素バーナーをオリンピア工業（東京都立川市）と共同開発した。2023年度中に受注を始める。燃焼に必要な装置を一体化し、空調システムやボイラなど既存設備の置き換え需要に対応した。水素対応のガンタイプバーナーの開発は業界初。水素燃料価格の低下を見越し、今後3年間で100台の販売を目指す。

置き換え需要に対応

燃料となる水素とガスをあれば運転できる。燃焼させる機構を採用し、機器内部で火炎が逆流する「逆火」現象が起きにくい。また水素燃焼に適したノズル構造を用い、ノズルの温度上昇を抑えた。



燃焼させる機構を採用し、機器内部で火炎が逆流する「逆火」現象が起きにくい。また水素燃焼に適したノズル構造を用い、ノズルの温度上昇を抑えた。

中外炉工業でプラント事業本部を統括する阪田守取締役執行役員は「水素はインフラに課題があり営業活動は」

これからだが、炉に限定されず新たなマーケットが開拓できる」と期待。工業用にとどまらず、商業施設など幅広い施設での採用を目指す。

同社は工業炉や燃焼装置の開発・製造を手がける。22年には熱処理炉用の水素バーナーを開発し、堺工場（堺市西区）に設置したデモ機を用いて営業活動を進める。ガンタイプのバーナー開発で実績のあるオリンピア工業と組むことで製品群を拡充し、顧客の脱炭素対応の要望に応える。

中外炉工業がオリンピア工業と共同開発したガンタイプ水素バーナーのイメージ（中外炉工業提供）